

「学び」について

校長 牧 健一

令和3年1月26日、中央教育審議会で「令和の日本型学校教育」の構築を目指した答申がまとめられました。令和4年になり、全国の小学校でこの実現に向けた教育活動が行われています。答申には次のようなことが書かれています。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

そのために「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する。

一昔前は、学習者が授業者から受動的に情報を伝達され、行動に変容が起こることを「学び」と捉えていました。いわゆる教授型（教え込み）の授業がそれにあたり、古来、学校教育の典型的なスタイルといわれていました。

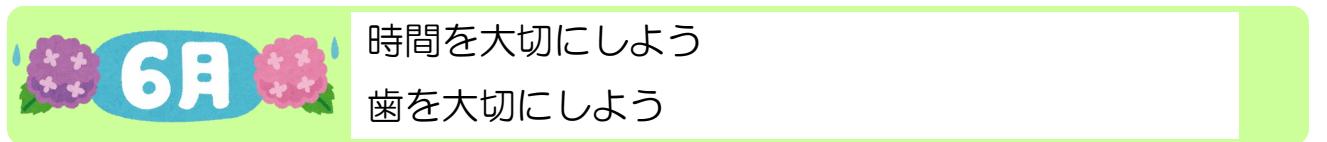
ところが、グローバル化や少子高齢化、高度な情報化が進む社会では、人の脳に記憶された情報量を競うだけの学習は、次第に意味を失いつつあります（情報は検索すればわかりますし、競争相手も少なくなっています）。それよりも、様々な社会的変化に対応しながら自ら学ぶ力や、多様な人々と協働し、新しい価値観やイノベーションをもたらす力の方が、持続可能な社会を創るためにも、より重要です。「主体的・対話的で深い学び」はその力を身に付けるための方策の一つといえるかもしれません。

学校段階では、具体的にどのように進めていけばいいのでしょうか。

川上小学校では、学校教育目標に「自ら学び共に生きる」を掲げています。

日々の実践レベルでは、「めあて」と「まとめ」を意識した問題解決的な学習の授業、その学びを支える基盤的なツールとしてのICTの活用など、学校の全職員がそれぞれの立場で真摯に取り組んでいます。また、保護者の皆様による読み聞かせや地域の方々による食農指導など、校区内で、広義での協働的な学びの場は、本当に豊かに機能しているように思えます。

学校を取り巻く大人が“子供のために”という思いを胸に、できることに根気強く取り組むことは教育の不易の部分です。そして、ほかにできることがないか、私たち教員は最新の知見に関する研鑽を深める必要がありそうです。



時間を大切にしよう
歯を大切にしよう

思い出つくった 修学旅行（5/23-24） 春の一日遠足（5/25）



5・6年生は、熊本市内の自主研修やグリーンランドに、1泊2日の三校合同修学旅行に行ってきました。事前に調べて、みんなで決めた熊本ラーメンも食べました。



中央公園では、ほとんどのお子さんが水遊びを楽しみました。



コロナ禍で変更もあります。
週報などご確認ください。

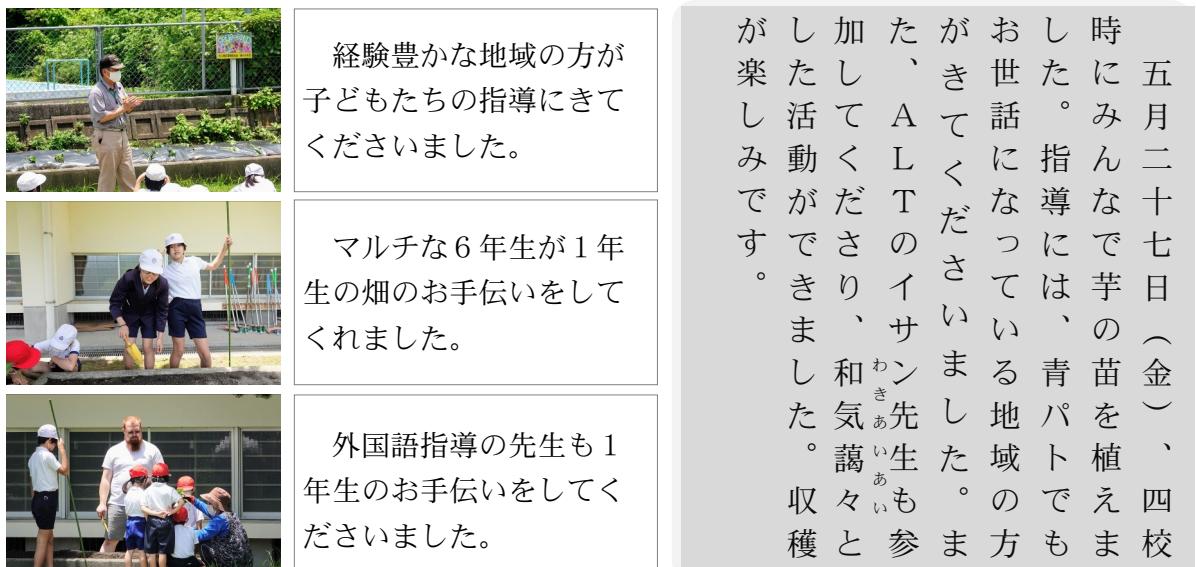
- 2日（木） 粉まき（農業体験）
- 3日（金） 市来小との交流学習
校内スケッチ大会
- 4日（土） チャレンジ教室
- 8日（水） プール掃除（6校時）
市P連単P会長会
- 17日（金） プール開き

- 19日（日） 力又一教室
- 22日（水） 田植え（農業体験）予定
- 23日（木） 移動図書
- 25日（土） 市P連ミニバレー大会（未定）
- 29日（水） 租税教室（6年）
小中一貫教育乗り入れ授業
(5・6年)



実りの秋をめざして

～川上小の食農教育～



5月の川上ブランド

未来を生きる力を育む

● 英語教育

国際社会で他者と協働できる子供



イサン先生と一緒に



放課後イングリッシュ タイム

● I C T 活用

Society5.0時代 に対応できる子供



シンキングツール で発想を広げる



A | ドリルを つかった学習

● 読書指導

豊かな心、自ら学ぶ力をもつ子供



スクリーンに絵本
が映ります



地域や保護者の方 の読み聞かせ

南日本新聞子供のうたのコーナーに本校児童の詩が紹介されました。

5月12日 (木) 5年生福田くん 「友だち」

4月27日(水) 6年生藤井さん 「ウコッケイ」

